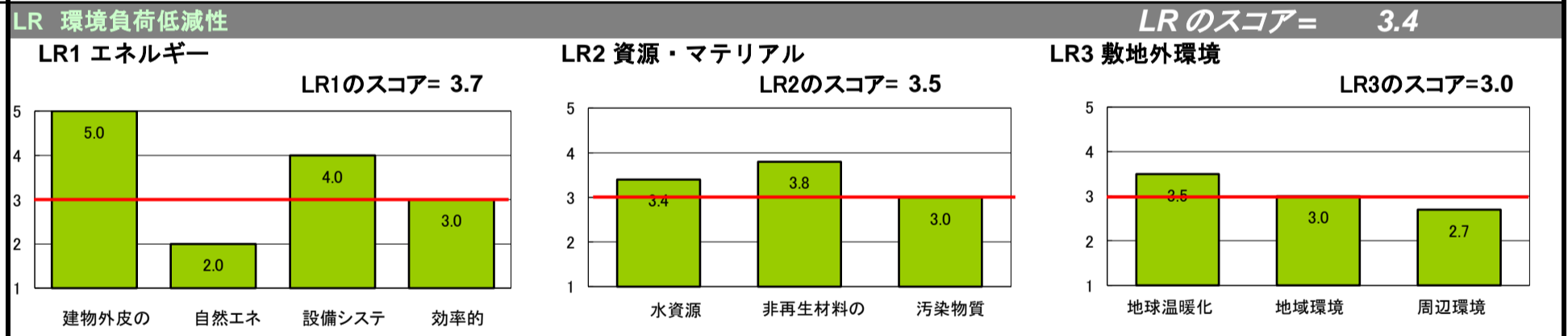
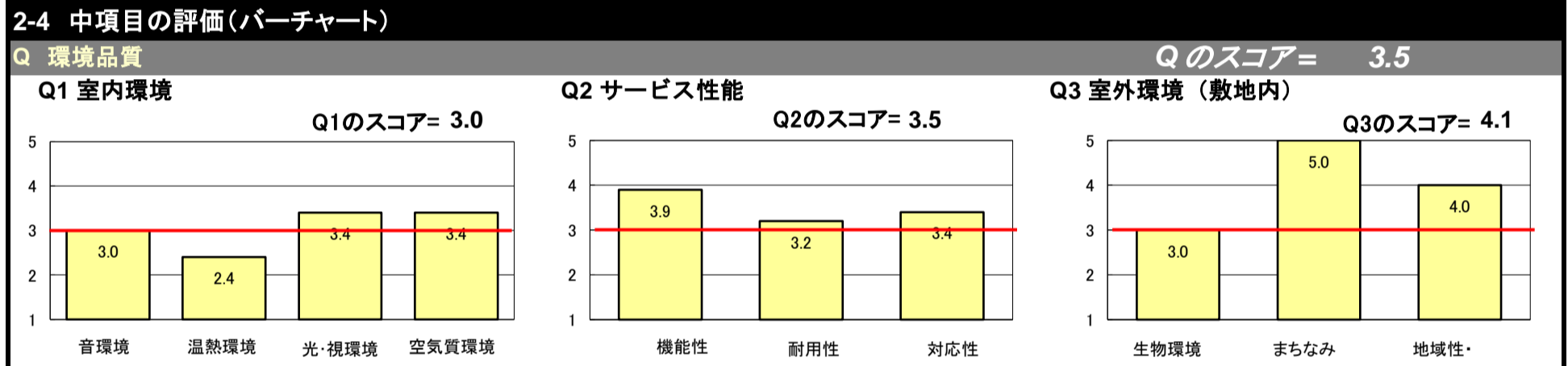
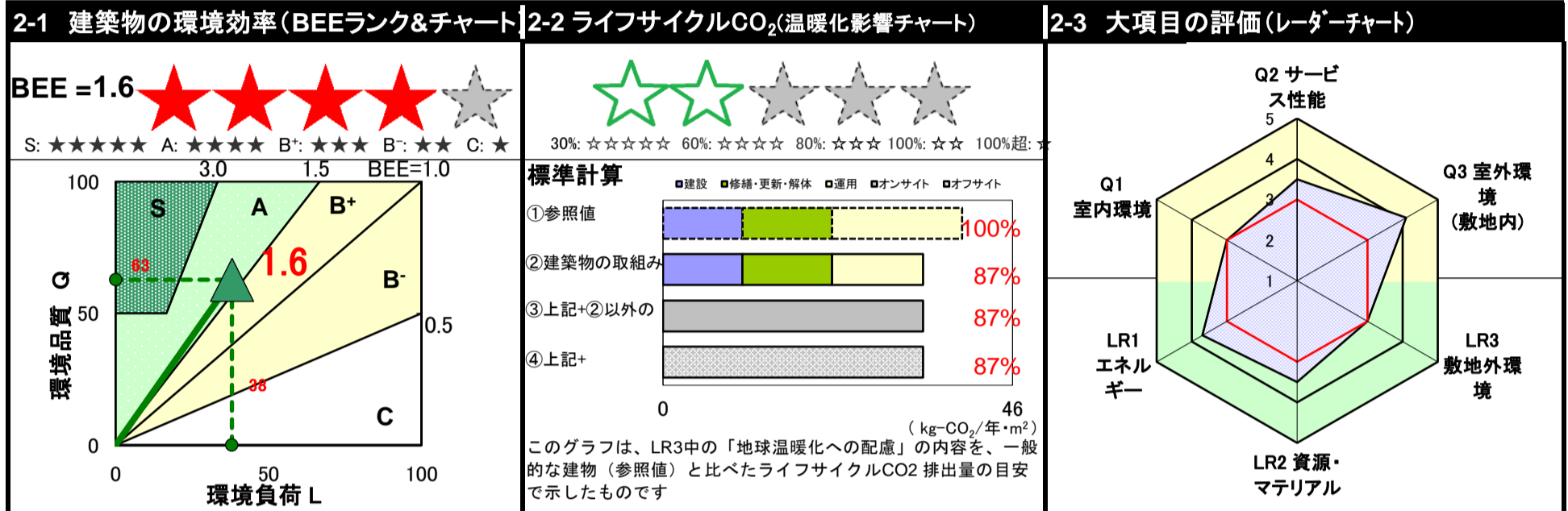


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知県立にしお特別支援学校	階数	地上2階
建設地	愛知県西尾市須脇町高河原86番地	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条地域	平均居住人員	420人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,700時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年2月13日
敷地面積	26,059 m <sup>2</sup>	作成者	寺西 敦敏
建築面積	8,123 m <sup>2</sup>	確認日	2020年2月13日
延床面積	12,603 m <sup>2</sup>	確認者	篠原 佳則



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮 3.5</p>	<p>③敷地内の緑化 3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 18.5%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0%</p>
<p>②資源の有効活用 3.5</p>	<p>④地域材の活用 4.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>県産材(地域の土)を利用したタイル</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>内装材に県産材の木材を利用(腰壁、天井ルーバー等)</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>															
<b>Q1 室内環境</b>															
<b>1 音環境</b>															
1.1 室内騒音レベル															
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
<b>2 温熱環境</b>															
2.1 室温制御															
1 室温															
2 外皮性能															
3 ゾーン別制御性															
2.2 湿度制御															
2.3 空調方式															
<b>3 光・視環境</b>															
3.1 昼光利用															
1 昼光率															
2 方位別開口															
3 昼光利用設備															
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															
3.3 照度															
3.4 照明制御															
<b>4 空気質環境</b>															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質															
4.2 換気															
1 換気量															
2 自然換気性能															
3 取り入れ外気への配慮															
4.3 運用管理															
1 CO <sub>2</sub> の監視															
2 喫煙の制御															
<b>Q2 サービス性能</b>															
<b>1 機能性</b>															
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性															
2 高度情報通信設備対応															
3 バリアフリー計画															
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観 (天井高)															
2 リフレッシュスペース															
3 内装計画															
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計															
2 維持管理用機能の確保															
<b>2 耐用性・信頼性</b>															
2.1 耐震・免震・制震・制振															
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
2 免震・制震・制振性能															
2.2 部品・部材の耐用年数															
1 躯体材料の耐用年数															
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
6 主要設備機器の更新必要間隔															
2.4 信頼性															
1 空調・換気設備															
2 給排水・衛生設備															
3 電気設備															
4 機械・配管支持方法															
5 通信・情報設備															

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高3.9mを確保	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		中庭を設け、ゆとりある平面計画	3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	田園風景の敷地に底のある伸びやかな2階建て低層建築物を計画	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.0	0.30	-	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	内装材に県産材の木材を利用(腰壁、天井ルーバー等)	-	5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	0.40	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			Low-eガラスの採用	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	2.0	0.20	-	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			高効率の設備機器を採用	3.0	4.0	0.30	-	-	-	4.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型衛生器具の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管、RC-40、VP管等のあい	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	仕上げ材に県産材の木材を利用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	敷地周辺に緑地帯を確保	-	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器は使用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐輪場・駐車場の必要台数の確保と送迎と職員動線経路の分離	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	2.8	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	2.0	0.60	-	-	-	
2	砂塵の抑制		砂埃が発生にくいグラウンド舗装の仕様	-	4.0	0.20	-	-	-	
3	日照障害の抑制		日影規制の1ランク上位の規制を満足	-	4.0	0.20	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	2.3	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	2.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:18.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>4.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	県産材(地域の土)を利用したタイル
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	内装材に県産材の木材を利用(腰壁、天井ルーバー等)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	田園風景が広がる敷地に、庇のある伸びやかな2階建ての低層建築物を計画。外壁タイルは地域産の土を取入れ、廊下腰壁は車いすに対する壁面保護と木による温かみのある内装として、県産材を活用し、地域性溢れる計画を実現。教室前に中庭を随所に設け、外遊びの場と明るい室内環境を確保。ふれあいホールは、ハイサイドライトを設け、明るい環境と中心的な空間の設えとして整備。
Q1 室内環境	主たる部屋や廊下の天井面は、吸音性能のある仕上げ材を採用。十分な換気量の確保、給気と排気の十分な離隔距離の確保等、新鮮で清潔な空気質環境を実現。
Q2 サービス性能	普通教室群は廊下型ではなく、ユニット型に近い平面形式を採用。教室近くにトイレや教材庫、面談室を設け、教員の眼が届きやすく、児童生徒がコンパクトに基本的な生活ができる環境を計画。廊下は車いすでも十分通行可能な幅員を確保すると共に、車イス等に対する壁面保護として、木の腰壁を設置。
Q3 室外環境(敷地内)	教室前の中庭等には、レイズドベッドを設け、車いすでも植栽の手入れが可能な計画。 敷地周囲には緑地帯を設け、緑豊かな街並みの景観を形成。 前面道路の正門前には、地域の人が立ち寄れるポケットパークを整備。 外構の舗装は透水性仕様として、ヒートアイランド現象の抑制に配慮。
LR1 エネルギー	教室の窓など外部に面する窓ガラスの一部をLow-eガラスとし、断熱性能を向上。 全面ピットを活用したクール・ヒートレンチの活用により、空調負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器や節水コマの採用により水資源保護に配慮。 あいくる材の積極的な採用により、リサイクル、省資源化に配慮。 空調の冷媒はノンフロンを採用し、汚染物質材料の回避に配慮。
LR3 敷地外環境	敷地周囲は緑地帯を設け、景観形成や地球温暖化の抑制に配慮。 グラウンドは雨水の表面貯留池として計画し、周辺環境に対する雨水流出抑制を実現。 グラウンド周囲は緑地帯を設け、砂埃の飛散を防ぐとともに、砂埃の起こりにくいグラウンド舗装仕様を採用。
その他	建設時における建設発生土は、他の工事現場への搬入、再利用を図れるよう検討。